

論文審査の要旨及び担当者

No.1

報告番号	甲 乙 第 号	氏 名	MACIKENAITE AMBUTAVICIENE Vida	
論文審査担当者	主 査	政策・メディア研究科委員	総合政策学部・教授	加茂具樹
	副 査	政策・メディア研究科教授	総合政策学部・教授	土屋大洋
		政策・メディア研究科委員	総合政策学部・准教授	神保謙
		政策・メディア研究科委員	総合政策学部・准教授	清水唯一朗
学力確認担当者：				

本論文は、改革開放期の中国共産党による一党支配体制のもとで、中国共産党および国家機関と企業組織とのあいだの関係がどのように変化したのかを論じたものである。この変化を論じるために本論文は、中国共産党による一党支配体制を支えてきた企業の経営者の経歴に注目した。本論文は、企業経営者一人一人の経歴を追跡することをつうじて、企業経営者が中国共産党および国家機関と企業の役職を渡り歩いた結果としてかたちづくられていったインフォーマル・ネットワークを可視化し、その分析をおこなった。

本論文が果たした学問的な貢献は、以下の理論的、実証的、方法論的の三点に整理することができる。理論的な貢献とは、今日の現代中国政治研究の核心的な研究課題である、中国共産党による一党体制が強靱であることの要因分析にかんして、先行研究が提起した分析概念の限界性を指摘したことである。実証的な貢献とは、中国共産党および国家機関と企業とのあいだのインフォーマル・ネットワークの全体的な様相を明らかにすることができたことである。このネットワークの可視化をつうじて、中国の政策決定過程をより良く理解する手掛かりを得ることができた。方法論的な貢献とは、中国におけるインフォーマル・ネットワークを把握するために社会的ネットワーク分析の手法を用いたことである。今後、現代中国政治研究における新しい研究手法として注目され得るものである。

本論文が、大規模なデータセットを構築し、中国共産党による一党支配体制に強い影響をあたえてきた企業と中国共産党および国家機関とのあいだのインフォーマル・ネットワークの実態とその変化の分析を試みたのは、先行研究が提起し、今日、中国共産党による一党体制の強靱性を説明するうえで説得力があると評価されている分析概念にたいして、問題を提起するためである。

天安門事件直後の1990年代、中国政治研究の主な論点は、中国共産党による一党支配の脆弱性と体制移行の可能性であった。そこでは、経済危機による中国共産党の分裂や、政治的自由を求める中産階級の成長といった、体制変動を予見する様々な議論が提出された。しかし、その後の中国政治は、当初の予測とは相当に異なる展開を示してきた。急速な経済成長が続き、結果として登場した中産階級は中国共産党の一党支配に対抗的な行動をとることはなかった。中国共産党は、経済発展と政治的安定の同時実現に成功したのである。

こうした状況は、中国政治研究の焦点を、体制の存続とその強靱さの説明に移らせた。そこで、内外の研究者の関心が集まったのは、予想外の生存能力を示した中国共産党であった。たとえばB.ディクソンは、1990年代以降、中国共産党が社会団体に対する統制管理を維持する一方、知識人と企業家の「包摂」を積極的に進めてきた経緯に注目し、他方で、D. シャンボーは、中国共産党が旧ソ連や東欧の経験を「学習」し、果敢なる改革

を実行し続けてきた点を指摘した。日本国内でも権威主義体制の「適応」論といった概念をつうじて、中国共産党の統治能力の増大を捉えようとする努力がなされてきた。

本論文は、こうした中国共産党による一党体制の強靱性の説明を試みる研究の一環に位置付けられるが、本研究は、先行研究が提起した体制の強靱性を説明するための概念にたいして批判的な論点を提起した。すなわち中国共産党の「包摂」、「学習」、「適応」論が成立するためには、中国共産党は、自らセットした制度や修正した制度が今後どの様に作用するのか予知し、管理する能力を有している必要がある。本論文は、先行研究が中国共産党の能力を高く見積もりすぎていることへ疑念を提起した。

本研究の分析をつうじて明らかになったことは、中国共産党による一党体制の強靱性を説明する概念としての「包摂」、「学習」、「適応」論の限界性である。中国共産党は変化する国内の社会・経済上の問題に対応し、それを解決するために、過去 20 年間の間繰り返し制度の改革に取り組んできた。しかし、中国共産党および国家機関と企業組織とのあいだの独特なインフォーマル・ネットワークは、改革によってフォーマル・ネットワークの関係が調整されたとしても、長期的な経路依存的な過程をつうじて、中国共産党および国家機関の意図とは関係なく残存する。この残存するネットワークが、体制の強靱性の源泉を浸食するのである。制度改革の効果は、長期的にみれば、中国共産党および国家機関と企業組織とのあいだのインフォーマル・ネットワークの影響によって、中国共産党や国家が必要とする政策を実行するための体制の能力が制限される可能性がある。それは最終的には体制の強靱性を弱める可能性がある。本論文は、体制の強靱性を説明するためには、制度改革にともなっにつくりあがる informal institutions に注目をする必要があることを説明した。こうして本研究は、中国共産党による一党体制の強靱性に関する先行研究に、理論的な貢献を果たしたのである。

本論文は、現代中国政治研究において、極めて重要かつ膨大なデータセットの構築に取り組み、これらのデータを丁寧に分析しながら、中国共産党による一党支配体制の実態を明らかにした。具体的には、本論文は 33 の企業の経営者の経歴を分析の対象とし、彼らの 1992 年と 2000 年、2005 年、そして 2010 年の役職にかんするデータを蒐集した。この 4 つのデータセットを社会的ネットワーク分析の手法を用いた分析をおこなうことによって、約 20 年の時を経てかたちづくられた総計 468 の役職にかんする中国共産党および国家機関と企業との間のインフォーマル・ネットワークの構造と変化の過程の可視化に成功した。今後、社会的ネットワーク分析の研究手法を応用することによって、現代中国のエリート政治を概念化することが可能となるだろう。加えて、関連する大規模データの分析を可能にすることも期待できる。今後、中国政治社会を理解する、そして概念化するための重要なツールとなると期待できる。

以上により、本研究をつうじて、著者は、先端的な研究をおこなうために必要な高度な研究能力、新たな研究領域を切り開く発想力、並びにその基礎となる豊かな学識、および研究成果を社会貢献へと結びつける能力を有することを示した。したがって本学委審査委員会は、Vida Macikenaite Ambutaviciene 君が博士（政策・メディア）の学位を受ける資格があるものと認める。